

ピーマン、トウガラシ (ナス科)

高温性の野菜なので、十分暖かくなってから栽培する。二股の枝のうち強い方を伸ばし、背を高くするのがコツ。

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地栽培					トンネル	定植	収穫						

1) 適地

日当たりがよく、よく肥えた排水がよいところが適します。日当たりが悪くやせたところでは収量が上がりません。10月まで長期にわたって収穫するので、秋冬野菜の栽培に邪魔にならない場所を選ぶことも大切です。

2) 品種

トウガラシには香辛料として用いる辛味種、辛くないものを甘味種と呼んでいます。甘味種の中で果実が丸く膨らんでいる品種をピーマンと呼び、特にオランダから輸入されて有名になったジャンボピーマンはパプリカと呼ばれ、カラフルな色を楽しむこともできます

辛味種：鷹の爪、八房

甘味種：伏見甘長、シシトウ、万願寺

ピーマン：京みどり、ジャンボピーマン類、ピー太郎

3) 作り方

【圃場の準備】定植の1か月前に、1㎡当たり堆肥2kgと苦土石灰200gを施して耕耘します。1週間前には1㎡当たり、苦土重焼リン30gと緩効性肥料100gを施用し、幅120cmの畝を立てます。畝にはマルチをかけて地温を高めておきます。

【フラワーネットの設置】誘引には、15cm目合×5目もしくは20cm目合×4目のフラワーネットを使用すると便利です。支柱は、長さ150cm程度のものを1.5～2m間隔で立てます。支柱の高さ60cm位の位置にフラワーネットを張ります。ネットの端は、網目に合わせて切り目を入れた木の棒に通して固定します。110cmくらいの位置にも、もう1段フラワーネットを張ると倒伏を防止できます。

【定植】一般には苗を購入します。霜さえ降らなければいつ植えてもかまいませんが、あまり早く植えてもなかなか大きくなりませんので、平坦地なら十分に暖かくなった5月10日頃に植えればよいでしょう。株間60～70cmに広く植えます。50cm程度の細い仮支柱を立て、倒れないようにくくり付けておきます。

【整枝】放任しておくとも各節からわき芽が伸び、すんぐり型の樹になって、あまり収量



もあがりません。最初に枝分かれする節より下のわき芽は全て取り除きます。1番花のところで分岐しますので、これより上の太い枝4本を主枝として残します。各主枝は、二股になった枝の強い方を残し、もう一方を20cm程度で摘芯します。

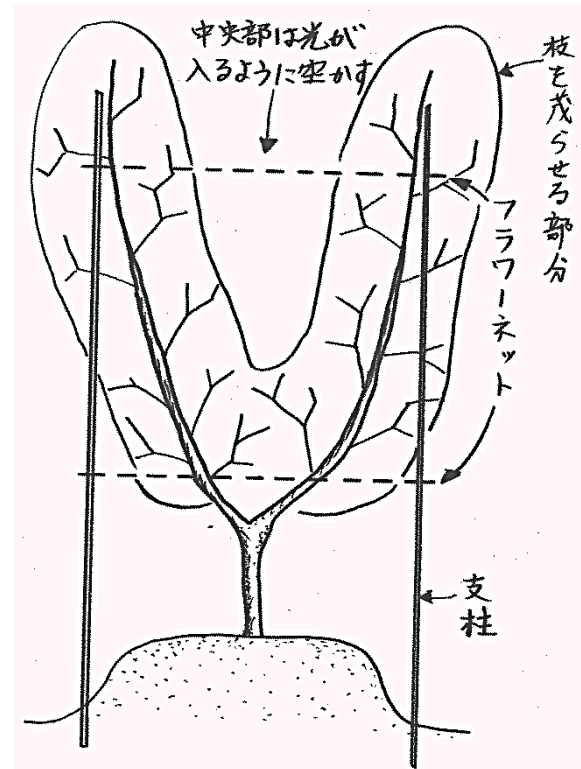
【追肥】収穫開始期以降、2週間に1回程度圃場1m²当たり高度化成肥料30gを畝肩に施用します。鍬の柄などで深さ6~7cmの穴をあけ、肥料を入れて埋め戻します(穴肥)。

【敷きワラ】梅雨明け後はマルチ内の温度が高くなりすぎるので、マルチの上に敷きワラをして、陰にします。草刈りした雑草をマルチの上に乗せてもかまいません。夏の乾燥期には畝間灌水します。トウガラシの甘味種は、乾燥が続くと実が辛くなります。

【収穫】遅れないように若どりします。実の色が葉と同じ緑なので、見落とさないで下さい。特に伏見甘長やシシトウは収穫が遅れると硬くなって品質が低下します。最盛期には必ず毎日収穫します。赤くなった実がたくさん樹に残っているようでは、その後の収量は期待できなくなります。

4) 病虫害防除

アブラムシ類やアザミウマ類がつきやすいため、定植時には粒剤を入れ、栽培中も適宜観察して防除に努めてください。また、高温期には青枯病の発生も見られます。一度青枯病が発生すると防除は困難です。敷きワラをするなど、高温期に地温を上げない工夫が必要です。水を比較的好む野菜ですが、長時間畝間に滞水しないよう、明渠を確実に尻水戸につなげる対策が必要です。



枝の配置方法



万願寺トウガラシ